いのち・愛、そして絆を大切にするまちづくり

No.26　2014

ヒューマン上田

ヒューマン【Human】とは…

「人間の」とか「人間的」と訳され、一人ひとりの人権を大切にする明るい上田市であることを願い、名付けられました。

Photographed by 倉沢　正（上田写真クラブ）

ああ アンパンマン やさしい君は　いけ みんなの夢まもるため

上田市人権啓発推進委員会
会長　出澤　　宏

緑と赤のクローバーは、大地に根をはり日の光を受け、どの葉も精一杯に生きているように見える。

昨年、やなせたかし氏が９４歳で亡くなった。代表作であるアンパンマンの絵やことばは、子どもたちや東日本大震災の被災者たちに勇気を与え続けている。また、やなせさんは、人権イメージキャラクターのデザインもしていて、それらは人権啓発のチラシやイベントなどに使われている。

上田駅前で街頭啓発中の
人権イメージキャラクターの
人KENまもるくんとあゆみちゃん

彼が作詞した「手のひらを太陽に」という歌がある。その中で、「生きているから」歌い、笑い、踊り。そして、カエルやトンボやミツバチたちと一緒に生き、生きているから悲しかったり、嬉しかったり、愛するのだと語りかける。

アンパンマンの正義とは、悪は懲らしめるが再起不能にすることではない。ひもじくて困っている人を助け、自らの体をちぎって与えることである。

「ああ　アンパンマン　やさしい君は　いけ　みんなの夢まもるため」このフレーズが書かれたやなせさんの東日本大震災被災地支援ポスターは、被災者を勇気づけ、今も大切に飾られているそうである。

この震災で被災した子どもたちは、震災体験をどのような言葉で表現しているのか。次に、中学三年生の男子生徒が書いた文章の一部を紹介したい。

『あの地震で私は成長することができました。初めて死を覚悟しました。それからは生まれ変わったように過ごしてきました。あの地震を乗り越えたことで自信がつきました。 命のはかなさを知り、一日一日を一生懸命生きるようになりました。自分が生かされていることを知り少しでも誰かの力になれるよう努力し続けました。これからも生かされている命を大切にして、一生懸命、生きて生きて生きまくります。』

多くの人の助けがあり、強く生きていこうとする気持ちに溢れている。人は一人では生きていけない。助け合って、時には自らの身を削って他人を助けることも必要なのだ、と気が付いた。

私たちは、何をすべきかではなく、自分は何ができるかを考え想像し、行動することこそ、大切なのではないだろうか。

Human UEDA 2014《No.26》

特集　同和問題の現状と私たちの課題

自分が、生まれながらにして差別を受け、結婚を反対されたり、就職を断られたりしたらどうしますか？

「自分には関係ない。」
「そっとしておけば差別は自然になくなる。」

という人もいます。
しかし、部落差別が自分自身のこととして起こったときに、偏（かたよ）った見方や考え方が、本音として、ことばや行動に現れてしまうものです。
今でも部落差別事件は、身近で起こっています。
最近の事件から、自分だったら、どのように考え、行動したらよいか考えてみませんか。

最近の部落差別事件から

事件 1　介護職員が差別発言
～○○のしょうも、こういう性格だ～
【平成23年10月】

東信地区にある公的福祉施設において、職員３人で精神疾患のある入所者Ａさんの入浴介護のさいに、Ａさんが指示に従わなかったため一人の介護職員がＡさんに対して「こういう病気の人は、こういう性格だ」と言い、つづけて「○○のしょうも、こういう性格だ」と発言しました。

その場にいた介護職員Ｂさんは、その発言を聞き驚き、その日のうちに所長に報告しました。所長が差別発言をした職員に事実を確認し、明らかになりました。
その福祉施設では、同和問題に関する研修がまったく行われていなかったそうです。

※○○は差別用語

あなただったら、どんな行動ができますか？

介護職員Ｂさんは、
差別発言があったことを所長に報告し、
問題を明らかにしました。
もし、あなたが、
その場にいあわせたら、
どんな行動が
できるでしょうか？

事件 2　身元調査のための問い合わせをする差別電話
～結婚調査だと～【平成22年2月】

北信地区の市役所に「○○地域の住宅は同和対策事業の住宅ですか？」という電話があり、「なぜそのような質問をされるのですか」という職員の質問に対して「結婚に関する調査です」と発言しました。

※○○は地区名

事件 3　被差別部落地区を示す地図等を問い合わせる電話
～教えるから差別がなくならない～【平成22年1月】

東信地区の市役所に、「被差別部落を示すような地図があると聞いたが」という電話があり、対応した職員が、「人権に関することでお答えできません」と伝えたところ、「私は、今行われている解放活動が理解できない。なぜ知らない人にまで部落のことを教えているのか。臭いものにはふたをしておけば良いことだ。わざわざ教える必要はない。教えるから、いつまでも差別がなくならないと思うが」と発言しました。

私たちに求められていること

社会のいろいろな関わりの中で生きている私たちは、何気ない言葉や行動で差別の加害者になったり、理不尽（りふじん）な差別を受ける被害者にもなりかねません。

だからこそ、いろいろな差別問題を私たち一人ひとりの問題として受けとめ、人権感覚を磨（みが）き続けることが大切です。

一人ひとりの人権が尊重される社会を実現するために

上田市人権啓発推進委員会は、市民の一人ひとりが人権尊重の意味を理解し、正しい知識を身につけ、豊かな人権感覚を育み、平等であらゆる差別がない明るい社会の実現を目指しています。
研修会や講演会などの詳しい活動については、４、５ページをご覧ください。

歴史から学ぼう一口メモ　～ 差別された人々 ～

近世の社会にも、中世と同じように、死をけがれとするなど、人間がはかりしれないことをおそれる傾向が強くあり、それにかかわった人々が差別されました。もっとも死にかかわっても、僧侶や処刑役に従事した武士などは差別されなかったわけですから、差別は非合理的で、都合よく利用されたものであるといえます。
差別された人々は、地域によってさまざまに存在していました。このうち、えた・ひにんとよばれた人々などは、江戸時代中期から幕府や藩が出す触（ふれ）などにより、百姓・町人とは別の身分と位置づけられました。これにより、差別はさらに強化されました。
えたとよばれた人々は、農林漁業を営みながら、死牛馬（しぎゅうば）からの皮革（ひかく）の製造、町や村の警備、草履（ぞうり）や雪駄（せった）づくり、竹細工、医薬業、城や寺社の清掃などに従事しました。ひにんとよばれた人々は、町や村の警備、芸能などに従事しました。これらの人々は、社会的に必要とされる仕事や役割・文化をになっていたのです。

「社会科　中学生の歴史」帝国書院より

いのち・愛、そして絆を大切にするまちづくり

上田市人権啓発推進委員会 平成25年度の歩み

上田市人権啓発推進委員会は、昭和 63 年 2 月「部落差別をなくす上田市人権啓発推進委員会」として発足し 25 年が経過しました。平成 9 年には、あらゆる差別をなくし人権意識を高める啓発を行うことを主眼に置いた組織とし、現在の名称に改めました。

市民 140 余名の会員により、人権啓発活動を行っています。より多くの皆様にこの委員会を知っていただきたく、この 1 年間の主な活動を紹介します。

委員視察研修会

社会復帰を目指して

7月19日(金)、須坂市の「長野刑務所」と長野市の「救護施設 旭寮」、「更生保護施設 裾花寮」を見学しました。

長野刑務所では、職員から「ここには、主に初犯者の 20 歳以上の男子が収監されている」などの説明を受けたあと、所内の各所を見て回りました。当然の事ながら、窓には金網や鉄格子があり、厳重な警備がされていました。作業をしているところを見ると、受刑者の皆さんは、懸命に黙々と働いていました。また、刑務官の号令に合わせて作業場などへ移動したり、屋外で運動したりする姿も見られました。

「旭寮」は、様々な理由により日常生活を送る事が困難な方が入所しており、入所者の 55 %が 65 歳以上で、高齢化が課題であることを知りました。

また、「裾花寮」は、刑務所から出所して社会復帰に向けた準備をするための施設で、自立に向けて「人間関係をどう築くか」をテーマにして、生活訓練が行われていることがわかりました。在寮生の一人ひとりが、自分を見つめ直し、人間関係を学ぶ中で、社会復帰を目指しています。

第８回人権を考える市民のつどい

子どもの未来のために…
－ 柳田邦男さんの講演から －

10月３日、今年度も上田市人権啓発推進委員会をはじめとする五団体が主催して開催されました。

始めに、会場全員がハンドインハンド（手に手をとって）で歌を歌い、温かい雰囲気の中で始まりました。

活動団体『上田市手をつなぐ育成会』からは障がい者の就学・就労における厳しい現状が伝えられ、差別や偏見をなくそうとのアピールがありました。

講演では講師柳田邦男さんが、「人権とは、その人がその人らしく生きることができることである。」とした上で、「子どもの成長の仕方が子どもの人権意識に大きく影響し、その歪みのところに人権侵害という状況が生じる。」と述べました。そこで、柳田さんは、親子が一緒に本を読む『家読（うちどく）』を薦め、何冊かの絵本を紹介してくれました。そして、「絵本は、読む人が自分の直面していることと重なり合った時にすごい力を発揮し、一人ひとりの持っている可能性に気付かせてくれる」とその意義を説き、「他者の心を読み取り、それを大事にすることが人権を考えるときの原点である」と結びました。

上田市人権啓発推進委員会への
ご意見、入会申込み(年会費500円)は左記まで。

《事務局》上田市教育委員会 生涯学習課
TEL.23－6370

Human UEDA 2014《No.26》

人権啓発担当者研修会

参加してよかった！

11月２日（土）上野が丘公民館で、「つながり、ささえあう、わたしたちのまち」をテーマに、市内社会教育関係団体の人権担当者等を対象に研修会を開催しました。人権啓発DVD「桃香の自由帳」を全員で視聴し、６分散会に分かれて話し合いをしました。

啓発DVDによって、私たちが忘れがちな「人と人とのつながり」を、参加者が自分のこととして考え、問題を共有するきっかけとなりました。さらに、分散会では、世代を越えた意見の交換ができ、日常生活で感じている親子や地域のつながりなどについて、打ち解けた雰囲気の中で話し合うことができました。

研修が終わって参加者からは、「自分自身の心を変えていくことが必要と感じた。今日から笑顔で絆をもてるようにしたい」などの感想が多数寄せられました。

人権週間　街頭啓発

人権を考える機会にしよう

第65回全国人権週間（12月４日～10日）の初日12月４日に、人権擁護委員や人権啓発に関わる団体の皆さんと共に、上田駅やスーパーで、市内福祉施設の障がいのある方が作った木製のコースターやチラシなどを配布して街頭啓発を行いました。

人権週間に限らず、家族や友だち、職場などで、相手を「認める」「思いやる」気持ちを持ち続けることが大切です。一人ひとりの行動により、人権が侵害されることのない社会を目指しましょう。

平成25年度　人権作品審査

自分も他人も大切に

当委員会では、一人ひとりの人権が尊重され、希望に満ちた心豊かな社会の実現を目指し、本年度も人権に関わるポスター・作文・詩・標語を募集してきました。

多くの児童・生徒、一般市民の方から749点の作品が集まりました。ご協力ありがとうございました。

応募作品の中より２回の審査を経て、最優秀・優秀作品が決まりました。選出された作品は今後の人権啓発活動で活用させていただきます。

うえだ人権フェスティバル

「今、輝いて生きる」－ 障害者の自立を考える会 代表 井出今日我さんの講演から －

2月22日(土)・23日(日)「いのち・愛、そして絆」をテーマに人権フェスティバルが開催されました。

人権啓発資料の展示と、最優秀人権作品（ポスター・作文・詩・標語）の表彰式が行われました。

続いて、井出今日我さんの講演が行われ、井出さんは、障害を抱えてのこれからの生活の不安、切実な悩みを語りながらも、「障害者福祉を充実させたい」と語られました。

ご自身の信念「夢を諦めずに努力し追い続けることにより必ず叶う時がやってくる」という、未来に向かって前進する井出さんの姿に心打たれ、今後の活躍と、応援の思いをこめて、参会者から大きな拍手がおくられました。

平成25年度 最優秀人権啓発作品

上田市人権啓発推進委員会では、上田市教育委員会、上田・佐久地域人権啓発活動ネットワークとともに、毎年多くの方に人権尊重への理解を深めていただくために人権啓発作品（作文・詩・標語・ポスター）を募集しています。

今年度も小中学生をはじめたくさんの方に、ご応募をいただきました。その中から最優秀作品に選ばれた作品の一部をご紹介します。

うえだ人権フェスティバルで表彰式が行われました。（平成26年2月22日）

作文の部

行動することの大切さ

川辺小学校 六年　寺尾　一真

担任の先生は、五年生のころからよく宮沢賢治の小説を紹介してくれます。

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』では、主人公ジョバンニの親友のカンパネルラが、川でおぼれているクラスのいじめっ子のザネリを助け、自分は力つきておぼれて死んでいきました。

グスコーブドリの伝記でもブドリは冷害で苦しむ農民を救うために、カルボナード火山を爆発させ、自分は焼け死んでいきました。

ぼくは、賢治の小説はとても感動するけど、「クラスのいじめっ子を、自分が犠牲になって助けるなんてできないし、冷害を防ぐために、自分が焼け死んでいくなんてことはしない。」と思っていました。

六年生の二学期から、クラスで新聞を読む学習をしています。担任の先生が十月八日の記事を紹介してくれました。それは踏み切りに倒れていた老人を助けようとして、自分から踏み切りに飛び込み、老人を助けたものの、自分は電車をよけきれず、亡くなってしまった村田奈津江さんの告別式の記事でした。奈津江さんのご両親は、「娘が自分の心に正直に、信念を持って行ったことですので、見習って、しっかり生きていこうと思います。最後の別れはしましたが、いつまでも私たちの心の中に生きていると思っています。」と告別式に参加した人にあいさつし、会場には、おえつが広まったと書かれていました。

ぼくは、大変驚きました。「賢治が書いたブドリみたいに命をかけて他人を助ける人がいるんだ。」と思ったからです。

そしてぼくは、自分が恥ずかしくなりました。「他人のためになんか死ねないのが自分です。踏み切りに倒れているのが、ぼくの大好きなおじいちゃん、おばあちゃんなら、命がけで助けると思うけど、赤の他人なんて…。」と思ってしまったからです。

クラスのみんなで新聞の感想を出し合ったら、「正直に言うと、知らない人まで助けられない。」と発表してくれました。ぼくはみんなも同じ感想だったので、ほっとしました。

けれども、もう一度よく考えて見ると、やっぱり困っている友だちが目の前にいるのに、何もしない。何も行動しないで、自分は傷つかないように、見て見ぬふりをしているのは、ひきょうで、絶対にいけないと思います。

ぼくは、これからも困っている友だちや悲しんでいる友だちには、「どうしたの？大丈夫？」と声をかけ、いじめている友だちには、「やめなよ。自分が同じことをされたら、どんなに傷つくか分かるでしょ。」と注意し、今の自分にできる行動をしていきたいです。

行動することが、いじめをなくすことだと肝に銘じて、残りわずかになった小学校生活を、友だちとの絆をもっと深めながらすごしていきたいです。

作文の部　最優秀賞　受賞者

なかよしゆうびん　城下小学校 一年　南沢佑布子
「とべないホタル」を見て　中塩田小学校 二年　小林　暖乃
けいろう園に行った事　北小学校 三年　柳澤　莉緒
むすばれたキズナ　東塩田小学校 四年　須江ゆいか
「友だち」　傍陽小学校 五年　鳴澤　彩恵
行動することの大切さ　川辺小学校 六年　寺尾　一真
人権同和教育の学習で自分をみつめかえして　第五中学校 一年　樋口　響
「部落差別」の学習から　第六中学校 二年　飯島夏菜恵
人権の大切さ　第三中学校 三年　玉井　聖夜
「障害」の壁を乗り越えた先に　丸子修学館高等学校 二年　小林　彩花

詩の部

転校して来たぼく

丸子北小学校 四年　水永　悠斗

まだ暑い九月ごろ、
ぼくは　くま本県から転校して来た

みんな、やさしくしてくれたけど
運動会の練習でいそがしくて　なれなくて
おぼえる事もいっぱいあって　なれなくて
みんなと　仲よくできなかった

でも、そんなぼくに
みんな　ずっと声をかけ続けてくれて
遊んでくれたり
分からない事を教えてくれたり
心が　何だかあたたかくなって
みんなと　だんだん仲よくなれた

そんなみんなが　ぼくは大好き
ぼくもみんなに　やさしさを返すよ
ここに転校してきて　よかったな

詩の部　最優秀賞　受賞者

おとうさん　おこらないでね　よろしく　丸子中央小学校 一年　櫻井　実咲
「たいせつなきみ」を聞いて　中塩田小学校 二年　西本　美月
ありがとう、せいかちゃん　城下小学校 三年　山浦奈津希
転校して来たぼく　丸子北小学校 四年　水永　悠斗
給食のときのこと　神科小学校 五年　箕輪　みゆ
気持ち　東小学校 六年　小林　鈴佳
一言　真田中学校 一年　坂口　優希
君のココロ　真田中学校 二年　櫻井　舞弥

標語の部

だいじょうぶ　そのひとことが　うれしいな　丸子中央小学校 一年　川井　優希
一人じゃないよ　みんながいるから　だいじょうぶ　西小学校 二年　松永早智子
「それいいね。」人のいけんも　大切に　塩川小学校 三年　田中　凌羽
「おはよう」と　朝一番に　自分から　塩川小学校 四年　小山　銀斗
続けよう　いじめをなくす　強い意志　東塩田小学校 五年　池田　海聖
見つけよう　人それぞれの　輝きを　川辺小学校 六年　國貞　花音
違っていい　みんながみんな　同じじゃない　真田中学校 一年　櫻井　建門
みつけよう　人の心の　やさしさを　丸子北中学校 二年　中村　未来
認めよう　個性や違いは　自分の誇り　依田窪南部中学校 三年　北原　光梨
あなたの勇気が差別をなくす　やめよう見ぬふり　知らぬふり　シナノケンシ株式会社　岩崎　秀文

ポスターの部

みんななかよし
清明小学校 １年　金沢　康輝

いっしょに　はしろう
丸子中央小学校 ２年　今井　敬太

みんなでハイタッチ
武石小学校 ３年　毛利　匠太

みんなの心　一つになぁーれ
神川小学校 ４年　清水　美佑

一人の笑顔が　みんなの笑顔に
北小学校 ５年　星谷　未来

かげ口禁止
川西小学校 ６年　茶木さくら

みんな平等
第五中学校 １年　上原麻由佳

きっと明日は
塩田中学校 ２年　松井　　悠

［ 編集・発行 ］上田市人権啓発推進委員会　上田市天神 2-4-55　TEL.0268-23-6370